

海外安全対策情報 平成26年第1四半期（1月～3月）

1 社会・治安情勢

治安情勢全般については、良好とはいえず、当地犯罪発生件数は増加傾向が続いており、犯罪発生率も依然として高い水準にある。昨年極東管区内で登録された総犯罪数の約4割を沿海地方が占めており、治安環境は劣悪な状況にある。

当地における発生犯罪の傾向としては、自動車盗の多発（発生数ロシア全国4位）、未成年者による犯罪の増加（前年比増加率ロシア全国5位）、麻薬関連犯罪の増加（前年比23%増）など。

今般のウクライナ情勢に関連して、当地においても集会・デモ・抗議行動等が開催されている。現時点においては特段の騒擾は報じられていないものの、集会が無秩序化し暴力的な活動に発展する可能性も排除できず、引き続き注意を要する。

2 一般犯罪・罪種別犯罪の発生傾向等

(1) 一般犯罪の傾向

昨年中（2013年）の沿海地方における犯罪登録件数は52,450件（前年比9%増）であり、増加傾向が続いている。同登録件数は極東管区内犯罪登録数の約4割を占める。

ロシア全体では犯罪登録件数が減少傾向にあるが、かかる治安状況の中において沿海地方は前年に続く増加となった。上記増加率はロシア全国で6位（他増加率が顕著な連邦構成主体：サハリン州、チュメニ自治区、コミ共和国、ザバイカル地方、ヴォロネジ州）。

(2) 罪種別発生状況

ア 増加傾向にある犯罪

殺人（前年比30%増）、重度傷害（前年比5%増）、銃刀法違反（前年比35%増）、麻薬関連犯罪（前年比23%増）、詐欺（前年比30%増）贈収賄（前年比38%増）

イ 減少に転じた犯罪

強盗、略取誘拐、騒乱罪

(3) 地区別発生状況

ア 沿海地方行政区分

沿海地方における登録犯罪のうち、およそ3分の1がウラジオストク市において発生、増加率は前年比15.5%増となっている。次いでウスリースク市での発生が顕著であった。登録犯罪の約半数は窃盗罪。

他犯罪登録数が増加傾向にある地域としては、オクチャプリスキー地区、クラスノアルメイスキー地区、オリジンスキー地区、ラゾフスキー地区など。

イ ウラジオストク市内

ウラジオストク市内において犯罪登録数が増加傾向にある地域は、市内ソヴィエツキー地区となっている（鉄道駅、幹線道路、各種商業施設、娯楽施設等が密集する地区）。

(4) 邦人被害事案

今四半期中の発生情報はなし。

(5) 邦人以外の外国人が関係する凶悪事案

3月6日、チュグエフカ村バクザルナヤ通り所在のアパートに一時滞在中の中国人ビジネスマンの部屋に、凶器を所持した男が侵入、中国人男性を脅迫し、現金100万ルーブル以上を強取し逃走した。捜査の結果、地元に住む20歳の男が逮捕された。

3 テロ・爆弾事件発生状況

今四半期中の発生情報はなし。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

今四半期中の発生情報はなし。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

当該期間中は、大規模な賃上げストや商業活動に関連した暴動等、企業の安全に影響を及ぼす事案の発生情報はない。

以 上